

北信地域障がい福祉自立支援協議会 議事録

部会名

令和4年度 第3回 幹事会

開催日時

令和4年9月29日（木）10:30～11:30

参加者所属機関名等

北信保健福祉事務所福祉課、中野市福祉課、飯山市保健福祉課、山ノ内町健康福祉課、木島平村民生課、野沢温泉村民生課、栄村民生課、高水福祉会、総合安心センターはるかぜ、北信圏域障害者総合相談支援センター

本日のテーマ、課題等

- ①相談支援専門員の活動報告 ②第2回自立支援協議会について
③第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画の進捗状況 ④主任相談支援専門員の圏域推薦について
⑤その他

会議で話し合われた事

① 相談支援専門員の活動報告

○就業・生活支援センター

- ・別紙1参照

○療育

- ・別紙2参照

○安心コーディネーター

- ・別紙3参照

○基幹相談

- ・別紙4参照

② 第2回自立支援協議会について

○日時：令和4年10月31日（月）13:30～15:00

○開催方法：集合を予定し、感染症の状況によりZoomに変更する

○内容：①各部会上半期活動報告

②長野県自立支援協議会に提出する地域課題について

- ・ヘルパーの人材不足に対する提案（別紙）について、県協議会に提出してよいか諮る

- ・上記について、所属機関、圏域として取り組んでいる事、取り組みたい事等について意見交換

○その他：会議終了後、部会長会議を行う。テーマは「部会運営についての情報交換」。

③ 第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画の進捗状況

- ・障害福祉計画の各部会との連携や上半期の進捗状況を確認した。内容は、各部会の上半期活動報告。

④ 主任相談支援専門員の圏域推薦について

- ・相談支援事業所よろこび所属の竹内氏と未来工房つむぎ所属の甘利氏が推薦された。

⑤その他

- ・10月7日に長野県自立支援協議会フォーラム開催。開催方法はWEB形式（Zoom）。

就業・生活支援センターからの報告

報告者 湯本 精一

就業支援ワーカー 湯本精一 久保田和之	生活支援ワーカー 森山茂美
●活動状況から 在職者交流会 7月13日開催 参加者4名 相談状況 身体162件 知的406件 精神92件 その他56件 計716件 (昨年度同時期711件) 昨年とほぼ同程度の状況だが、知的相談件数が若干増加傾向にある。	
●対応ケースの中で、困難事例・特記事例など より深刻化してしまう「金銭管理の課題」のあるケース ・知的障がい 男性 22歳 就職4年 ・引っ越し費用の足しにと安易に消費者金融から貸付をうけるが、返済遅滞となる。 ご本人は支払期日の焦りから、さらに「手軽に」「まとまった金額」を借り入れることができる、いわゆる「闇金」とされる業者から複数回にわたって借り入れている。 ・借金が生活費だけに用いられるのではなく、ギャンブル（競馬）にも注がれており、また同居家族（父親のみ）の使い込みやギャンブルに充てられる背景がある。 ・金融会社からの職場への問い合わせや交通費（定期代）の現金流用などがあり、職業生活に大きく影響を及ぼしてきている。 ・現在、関係する機関との連携のもと、家計の整理を中心に支援を行うが次から次へと借金状況が明らかになり、ご本人自身も正確な把握はされていないご様子。	
●地域の課題・相談内容の傾向等から ・離転職相談の増加傾向 在職者の方からの相談のなかに、「転職」を希望されるケースが増加傾向にある。 きっかけはケースごとに様々であるが、おおまかな原因として ① 収入の拡大 ② 人間関係 上記2点に大別される。特に②人間関係は以前から離職理由の最たるものであるが、相談内容をより細かにみるなかで、「職場内の不寛容さ」を感じられるような事柄が感じ取れる。障害のある当事者の課題だけでなく、取り巻く職場環境の変化にも更に注目していきたい。	
●その他	

担当者 坂爪麗子、邊田卓馬、小野真奈美

●活動状況

◎第2回自立支援協議会そだちネットワーク部会(9月6日開催)は、新型コロナの感染拡大の影響で、本部会としては初のリモート開催を実施。ブレイクアウトルームを用いたWGごとの話し合いも好評だったため、今後も状況に応じて対面とリモートを使い分けて、継続した部会の開催を行っていく。

◎北信病院診療関係者連絡会(通称：ほっと研)では毎年研修会を開催しており、今年度は「学習障害について」をテーマにした研修会を11月に予定している。地域のLD等通級指導教室の先生にも研修会の準備にご協力いただいております、本研修が医療と教育の連携を進めるための一助になることを期待している。信州大学教育学部の高橋知音教授に講演していただく予定。

◎高校については、飯山養護学校の教育相談専任教諭や市町村の家庭児童相談員と同行し、保・小・中からの継続した切れ目のない連携が途切れないように、北信圏域の高校で、情報交換会や挨拶廻りを行っている。

◎6月より中野市にて児童クラブ訪問事業(放課後支援相談)が開始となった。大小2つのクラブにて各年5回を予定し実施している。効果についてはクラブによって差があり、来年度以降も見据えて、児童クラブの規模や物理的環境、職員の人数などの違いに合わせた効果的な支援のあり方について、市の担当部署と協議しながら進めている段階。

●対応ケースの中で、困難事例・特記事例等

・北信病院小児科Drが、発達障がい児の個別ケースの支援会議に出席いただけるという事例が2件あった。1件についてはリモートでの会議参加を予定しており、1件についてはコロナ関連で延期となってしまったが、対面での参加予定であった。北信病院と地域との連携について、これまではなかった形での具体的な協働が実現してきた。

●地域の課題

◎継続した課題として、インフォーマルな仕組み(教育相談、児童クラブなど)とフォーマルな仕組み(障害福祉サービスなど)において、両者の役割の境界や利用妥当性に曖昧さがあることで、支援が上手くいかなかったりトラブルに繋がるケースがある。そだちネットワーク部会やサービス向上部会においても関連した内容が共有されており、今後効果的な仕組みの運用に向けて地域全体で検討を進めていく。

地域あんしんコーディネーターからの報告

報告者 宮崎 由美子

担当者 宮崎由美子 綿谷元恵
●活動状況から（相談件数 6 月～8 月末日） 《相談延べ件数》 110 件 《実人数》 43 人 《緊急相談》 件 3 名 《空床利用》 件 4 名 《一人暮らし体験利用》 件 3 名 ●相談内容 《相談》 ・ 8 0 5 0 問題…同居する家族の高齢化に伴い介護能力の衰えが生じ家庭内での対応が困難になっているとの話が多い。（継続課題） 《緊急の受け入れ・対応》 ・ 以下の事例で報告 《体験の機会及び場の確保》 ・ お試しハウスの利用限度について概ねの上限を検討 《地域の体制づくり》 ・ 前年に引き続き会議参加 《専門的人材の確保・養成》 ・ 助け合い研修実施 中野市社協いこいの里：今井氏 北信総合病院精神科デイケアここぼ：小崎氏
●対応ケースの中で、困難事例・特記事例など ・ 一人暮らし体験事業を継続してご利用いただいているケースがあるが、ゴールが不透明なままスタートしていた経緯から、利用上限を検討する必要があった。支援課題としては、ひとり暮らしに必要なパスポート作りがあがっている。体験事業を通して暮らしの面におけるアセスメントをし、ご本人、ご家族、関係者へのフィードバックすることで、自立生活に向けた具体的なお提案としたい。 ・ ご家族が感染症にり患し、ご本人がご自宅に帰省できない状況が発生した。緊急 SS と通常 SS の支給を超えて併用することではるかぜでお過ごしいただいた。今後も考えられる事案。
●地域の課題・相談内容の傾向等から ・ 在学中の満 18 歳（対象者）：体験事業の利用希望について 在学中ではあるが卒業後にひとり暮らしを見据えていることから、満 18 歳の条件でひとり暮らし体験事業の利用を承諾いただいた。 ・ 体験事業の目的を、体験する場所の提供、ひとり暮らしの生活スキルや必要な支援 をアセスメントする場とすることで、体験上限の中で将来のことを相談できる機能をもたせたい。
●その他 今後、空床登録者のニーズについてモニタリングを行う予定。（継続）

基幹相談からの報告

報告者 河野 美代子

担当者 市村綾子 徳竹かず美 滝澤知紘 河野美代子

●活動状況 7月～9月

【委託業務】

- ・新規相談（計画相談修了者含む）・継続相談を行う。（訪問・面談・会議・見学など実施）

【基幹業務】

- ・生活困窮者自立支援調整会議（飯山市）
- ・相談支援専門員ネットワーク会議（月1回）
- ・野沢温泉村民生児童委員研修会（7月）
- ・特定相談支援事業所アウトリーチ（6事業所）
- ・市町村ケース進行会議
- ・新規事業所からの宣伝（訪問看護・共同生活援助・就労移行・B型）
- ・相談支援専門員初任者研修受け入れ（2名）
- ・自立支援協議会運営（コロナの状況に応じてオンラインも活用）

●対応ケースの中で、困難事例、特記事例等

【医療的ケアが必要なお子さんのケース】

① 4歳 女児（発達遅滞/胃ろう）

食事摂取が困難となり入院し胃ろう造設。退院後、保育園に戻ることを目標に在宅生活を構築。

② 2歳 女児（低体重で出生/経鼻経管）

来年度保育園入園を希望。医療的ケアがあっても入園できるのか、看護師は配置してもらえるのかなど不安は多く入園に向けて相談。

③ 15歳 男児（両下肢・体幹の機能障害/胃ろう・腎ろう・気管切開・吸引・浣腸）

母子2人暮らし。福祉有償運送、放課後等デイサービス等を利用しながら養護学校に通学。月の半分は圏域外でレスパイト入院を利用しながら在宅生活を継続。先日、母親が入院したことを機に、医療機関の連携拡大を進める予定。（病院：北信、東長野、新生、若穂）

●地域の課題

医療的ケアが必要なお子さんは圏域に14名。現在、医療的ケアの方が利用できる資源は少なく、また看護師不足も重なり、福祉サービスの利用が難しい場合もある。また、ご家族は保育園や学校への移行でも看護師配置について不安を感じており、ご家族の不安や負担は計り知れない。看護師不足に関しては、長野県医療的ケア児等支援センター、長野県看護協会・地域の訪問看護ステーション、NPO法人「親子の未来を考える会」等への相談も行いながら何とかしのいでいる状態であり、根本的な課題解決には至っていない。医療的ケアがあっても、保育園や学校にあたりまえに通い、必要な時には福祉サービス利用もできる安心な在宅生活が叶う地域になるようにしていきたい。数少ないわずかな声ではあるが、ご家族の声や現状に耳を傾けて頂き、大きな課題である看護師不足についても検討して頂きたい。